

第3節 感染症対策業務

当センターは良質で高度な先進医療を安全に提供することを使命とする病院である。院内感染を未然に防止するとともに、ひとたび感染症が発生した際には拡大防止のためにその原因を速やかに特定して、これを制圧、終息させることが重要である。

当センターの感染管理は、決定機関である Infection control committee : ICC (28名) を頂点に、その下部組織として感染対策を実施する実働部隊の Infection control team : ICT (24名) が設置されている。ICTは院内の全ての部門との連携を図り、各病棟から選出された感染制御リンクナースと協働し組織横断的に活動している。感染症対策部は、2名の医師と1名の感染管理認定看護師で構成されており、これらの活動を主導している。

1 ICT活動報告

(1) 薬剤耐性菌 (MRSA 等) 対策

厚生労働省サーベイランス事業 (以下 Japan nosocomial infections surveillance : JANIS) の全入院患者サーベイランス及び検査部門サーベイランスに参加している。メチシリン耐性黄色ブドウ球菌 (MRSA) 等の主要な薬剤耐性菌による感染症患者の発生に関するデータを継続的に収集・解析し、感染拡大防止策の介入を行った。薬剤耐性菌による感染症が発生した場合は、随時細菌検査室や病棟からの報告を受け、病棟、外来、カテーテル室、放射線部等の関係部署に対して感染経路別予防策の実施を依頼・指導した。また、週1回 ICT ラウンドとして、医師、看護師、薬剤師、検査技師で院内各部署のラウンドを実施した。ラウンド時に、院内感染事例の把握や感染予防策の指導を行った。この他感染症レポートを作成し、週1回全職員へ報告している。

(2) 抗菌薬適正使用への取り組み

ICCの下部組織として、抗菌薬適正使用支援チーム (以下 Antimicrobial stewardship team : AST) を設置した。ASTは医師1名、感染管理認定看護師1名、薬剤師2名、検査技師1名で構成し、週1回 AST ラウンドを実施している。ラウンドでは、カルバペネム系抗菌薬や抗 MRSA 薬の使用状況をモニタリングし、治療方針を評価している。抗菌薬の変更が必要な場合は医師へ提案をするとともに、抗菌薬の選択に際し医師からの相談に応じた。また、特定抗菌薬は使用届出制としている。届出率の改善に取り組んだ結果、届出率は前年度の 77.4% から 97.5% へ増加した。

その他、当センターの薬剤感受性率を算出し、職員へ公開している。

(3) サーベイランス (医療器具関連・手術部位感染・手指衛生) の実践

ア 医療器具関連サーベイランス

JANISの集中治療部門 (ICU) に参加しており、人工呼吸器関連肺炎、カテーテル関連血流感染症、尿路感染症のサーベイランスを行った。サーベイランス結果は半年ごとに ICC、ICT、感染制御リンクナース会議でフィードバックした。尿路感染症が高値となったため、カテーテル挿入時の清潔操作を徹底するよう周知した。

イ 手術部位感染サーベイランス

全ての手術を対象に手術部位感染サーベイランスを実施し、JANISへ報告している。サーベイランス結果は半年ごとに ICC、ICT、感染制御リンクナース会議でフィードバックした。手術室看護師へ結果のフィードバックと感染予防に関する勉強会を実施した。

また、医療安全管理者とともに手術室のラウンドを行い、手指衛生や個人防護具の使用、環境整備について指導を行った。

ウ 手指衛生サーベイランス

アルコール手指消毒剤及び手洗い石鹸の使用量から、1患者1日あたりの手指衛生回数を算出し、3ヵ月ごとにICC、ICT、感染制御リンクナース会議でフィードバックした。また、看護師と看護助手を対象に手指衛生直接観察を実施し、手指衛生のタイミングを調査した。結果はICT、感染制御リンクナース会議でフィードバックした他、調査時に直接職員へ手指衛生の指導を行った。手指衛生実施回数は前年度より増加している。

(4) 環境ラウンドに関する取り組み

週1回のICT検出菌ラウンド、月に1回のICT環境ラウンド、不定期に感染管理認定看護師によるラウンドを実施した。リンクナースを中心に各部署の5S活動に取り組んだ結果、上半期と比較し下半期の評価が大幅に改善された。改善が乏しい部署については、感染管理認定看護師が直接改善策を提案、指導した。

(5) 流行期の感染対策

患者及び職員に対してインフルエンザワクチンの接種、院内ポスターの掲示、サージカルマスクの着用や手指衛生の徹底、入院患者や外泊・外出から帰院した患者の健康チェック、出勤時の体温測定等職員の健康管理、院内の感染症発生状況についての情報公開等を実施した。また、面会者のサージカルマスク着用の励行と手指衛生の徹底、健康チェックを行った。対策は11月から3月末日まで実施した。

(6) 感染症発生報告

患者及び職員に感染症が発生した際には、感染症発生報告書と接触者リストの届け出制を実施している。

ア インフルエンザ

インフルエンザの報告は114件(平成30年11月～平成31年3月末まで)だった。内訳は、患者42件、職員72件だった。

同一病棟で同一期間に17名(その他疑い症例1名)のインフルエンザ感染があり、アウトブレイクとして対応を行った。対策として、臨時感染症対策委員会および臨時診療科会議を開催し、当該病棟および院内の入院や転入、面会を制限したほか、不要不急の当該病棟への立ち入りを禁止した。インフルエンザ発症者と濃厚接触した他の患者、当該病棟や当該診療科の職員、委託職員、看護学生は、抗インフルエンザ薬の予防投与を実施した。発症者が10名以上となったため、管轄保健所へ報告した。

イ カルバペネマーゼ産生菌

同一期間にカルバペネマーゼを産生するカルバペネム耐性緑膿菌3名、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌1名の発生があったため、アウトブレイクとして対応を行った。対策として、厳重な接触感染予防策を実施し、関連病棟の環境整備を徹底した。臨時感染症対策委員会を開催し、関連病棟および医師へ感染予防策の徹底と抗菌薬の適正使用について周知した。

(7) 職業感染防止

ア 結核感染防止

クオンティフェロン(QFT)検査にて、全職員のQFTベースラインを把握している。新規採用者および異動者は採用時にQFT検査を実施し、結核患者に接触するハイリスク職員は毎年実施している。一般病棟での結核患者発生時は結核小委員会を開催し、感染リスクの評価、接触者調査、個別相談に応じた。

イ 針刺し、血液曝露対応

針刺し、切創、皮膚・粘膜曝露は10件報告された。10件中、汚染された器材での針刺しは6件（咬傷はなし）、汚染の有無が不明な針刺しは1件、皮膚・粘膜曝露は2件報告された。また、使用前の非汚染針による針刺しは1件だった。

6月末～8月に6件の報告があったため、針刺し事故防止キャンペーンを実施した。ポスターを院内全部署へ配布し、注意喚起とともに安全な針の取扱いを呼びかけた。9月以降は2件の発生に留まった。

(8) 教育

	開催日	内容	対象者	参加人数
1	7月23日 (他、講演 4回)	第1回 院内感染対策研修会 「CD感染症と接触感染予防策」 講師：感染管理認定看護師 大沢朗子	全職員	507人
2	10月4日 (他、講演 4回)	第2回 院内感染対策研修会 「抗菌薬の適正使用について：基礎編」 講師：薬剤部 仙波秀彦	全職員	445人
3	11月26日 (ビデオ 研修7回)	第3回 院内感染対策研修会 「CRE等薬剤耐性菌と 抗菌薬の適正使用について」 講師：聖マリアンナ医科大学感染症学講座 國島広之 教授	全職員	325人 <地域公開 16人>
4	7月26日	「結核の基礎知識と空気感染予防策」 講師：大沢感染管理認定看護師	結核病棟看 護師 他	15人
5	9月10日 9月11日 9月12日	「感染症と个人防护具」 講師：大沢感染管理認定看護師	看護助手	43人
6	11月9日	2類感染症受け入れシミュレーション研修	全職員 保健所	多数

(9) 地域連携

感染防止対策加算1を算定する医療機関として、近隣の加算1（年2回）および加算2（年4回）を算定する施設と合同カンファレンスを実施した。加算2施設は新たに1施設が加わり、5施設となった。カンファレンスでは、耐性菌検出状況、広域抗菌薬の使用状況、感染症発生状況や感染防止対策等をテーマに意見交換や情報交換を行った。また、加算2施設の院内ラウンドを行い、環境改善に関する指導や意見交換を行った他、感染症発生時には感染対策等に関する相談に応じた。

加算1連携施設：深谷赤十字病院 ・ 小川赤十字病院

加算2連携施設：医療法人 啓清会 関東脳神経外科病院
医療法人 桂水会 岡病院
医療法人 蒼龍会 武蔵嵐山病院
国民健康保険町立 小鹿野中央病院
医療法人社団シャローム シャローム病院

(10) その他

ア 病院感染防止マニュアルの改訂

病院感染防止マニュアルの全改訂を行った。電子カルテ用パソコンでもマニュアルが確認できるよう改善した。

第4節 医療安全管理業務

1 組織体制の確立

当センターでは患者・医療従事者の安全確保等を目的に、医療安全に関する全般的事項を審議する医療安全管理委員会を設置している。また医療安全推進に向けて実践的に活動する医療安全推進担当者会、各部門の医療安全専門小委員会、有事の医療安全管理体制を担う医療事故対策委員会を設置し、医療事故防止に向けた組織体制を整備している。

医療安全管理室は、医療安全管理室長、専従セーフティマネージャーを配置し、医療安全管理の中心的役割を担い、各部門と連携しながら医療安全の推進に努めている。

2 マニュアルの整備

緊急事態発生時対応マニュアル、救急カート管理マニュアルを改訂した。

3 患者相談窓口の設置

セーフティマネージャーが医療に関する相談について対応する患者相談窓口を設置している。平成30年度は対応した相談はない。

4 安全への取り組み

(1) 医療安全管理委員会

委員会は副病院長、各診療部（科）長、各部（科）長、事務局長、その他院長が選任する者、25名をもって構成する。

定例会を毎月最終木曜日に設定し、12回開催した。主な検討内容は、以下のとおりである。

- ア 医薬品安全管理報告
- イ 医療機器安全管理報告
- ウ 研修会の企画・結果報告
- エ 医療安全ラウンド報告
- オ 医療安全推進月間事業結果報告
- カ 緊急事態発生時の対応・コードブルー発令方法の変更について
- キ 救急カート管理マニュアルの改正
- ク 医療安全情報の周知
- ケ インシデント事象報告と対応策
- コ 各部門の活動報告
- サ その他

(2) 医療安全推進担当者会

医療安全推進担当者会は、定例会を毎月第三火曜日に設定し、12回開催した。主な検討内容は、以下のとおりである。

- ア 医療安全管理研修会の企画・運営・評価（表1）
講演会は、全職員の他に地域医療機関へも公開した。
- イ 医療安全推進月間事業
毎年11月は厚労省が定める医療安全週間に合わせて医療安全月間としてイベントを企画している。平成30年度は医療安全推進月間ポスターの掲示や、全職員の名札に医療安全の緑色リボンシールを貼付し啓蒙活動を実施した。

患者参加の医療安全を推進するため「患者さんへメッセージかるた」づくりに取り組み、職員から標語を募集した。外来部門に掲示し投票にて選出した標語でかるたを作成中である。平成 30 年度は 11 作品が選出された。

- ウ 医療安全ラウンド
- エ 医療安全に関する情報の周知徹底
- オ 医療安全通知の配布
- カ インシデント事象報告
- キ その他

表 1 医療安全管理研修会

開催日	内容	対象者	参加人数
10月18日	講演会 テーマ「医療事故から学んだこと、 今後活かすべきこと」 講師：Office 風の道 KAZENOMICHI 代表 永井 弥生 氏 ※ビデオ研修 6回実施	全職員 地域 公開	482名

(3) 医療安全管理専門小委員会

各部門又は委員会が指定する特定の課題ごとに、専門小委員会を設置している。各部門におけるインシデントの原因分析・予防策・改善策の検討や、職員に対するインシデントレポートの積極的な提出の推進の関する業務を実施した。

(4) 医療安全カンファレンス

医療安全管理室長、検査技術部長、放射線技術部副部長、薬剤部長、臨床工学部長、看護副部長、業務部長、医療安全推進担当者会委員長、システム保守担当、セーフティーマネージャー、以上 10 名で構成する。毎週木曜日に定例会を設定し、38 回開催した。

提出されたインシデントレポート及び口頭報告から警鐘事例を抽出し対応策の検討を行った。また、新聞報道や他施設の事故事例等について院内の状況確認及び情報共有を行った。

以下は検討、改善した内容の一部である。

- ア 禁忌薬の誤投与防止対策
- イ 患者誤認防止対策（外来診察時、放射線治療、検体検査、書類）
- ウ 誤薬防止対策（過剰投与、過少投与、無投薬）
- エ 体内遺残防止対策
- オ 電子カルテに関連した事故防止対策
- カ 検査・測定に関連した事故防止対策
- キ 透析に関連した事故防止対策
- ク 転倒・転落

表2 インシデント・アクシデントの事象内訳と件数

事 象	合計	インシデント	アクシデント
処方・与薬	551	475	76
ドレンチューブ類の使用・管理	290	137	153
転倒・転落	185	125	60
検 査	286	267	19
療養の世話	85	53	32
治療・処置	160	83	77
食 事	57	51	6
手 術	32	25	7
そ の 他	559	409	150
計	2,205	1,625	580

表3 インシデント・アクシデントの職種別報告状況

職種	合計	インシデント	アクシデント
看護師	1,924	1,387	537
医師	28	11	17
薬剤師	67	64	3
栄養士	37	37	0
放射線技師	42	36	6
検査技師	55	53	2
その他	52	37	15
計	2,205	1,625	580

表4 インシデント・アクシデントの時間帯別の発生状況

時間帯	合計	インシデント	アクシデント
0～ 1時台	69	35	34
2～ 3時台	65	31	34
4～ 5時台	55	31	24
6～ 7時台	131	90	41
8～ 9時台	362	283	79
10～11時台	348	267	81
12～13時台	274	216	58
14～15時台	265	204	61
16～17時台	265	212	53
18～19時台	178	139	39
20～21時台	106	64	42
22～23時台	75	45	30
不明	12	8	4
合計	2,205	1,625	580

第5節 地域医療連携室業務

地域医療連携室は、近隣医療機関、開業医、訪問看護ステーション、福祉サービス機関等との連携を図るとともに、医療相談、看護相談、医療福祉相談、退院調整業務、情報発信等の業務を行っている。他院からの診療情報に関する照会及び相談の対応、紹介元医療機関への初回受診報告及び転帰報告、県民に対する適切な診療科の受診案内、地域医療機関との連携会議などを通じて、高度専門医療を提供するための環境の充実を図っている。

平成30年度の職員構成は、医師1名（兼務）、主幹3名（兼務2名）、MSW2名（常勤1名・非常勤1名）、看護師7名（常勤）、事務3名で（常勤1名・臨時職員2名）であった。また、病診連携担当、患者サポート担当（患者サポート・医療福祉相談）、退院支援担当（病棟に専任職員を配置）の業務分担をし、円滑な対応に努めた。

病診連携としては、地域の病院と患者の診療においてスムーズに連携が図れるように努め、医師と事務員が28医療機関訪問（病院13件、クリニック15件）を実施、事務員のみが205医療機関訪問（病院33件、クリニック172件）を実施し地域連携の強化を図った。

患者サポート担当は、患者・家族が安心して入院中の療養生活を送ることができるようMSWによる医療福祉相談や看護師による看護相談を実施した。院内・外の相談窓口として医療機関や施設、担当部署等と連携を図り医療連携や在宅療養支援を実施した。

退院支援担当は、入院初期に患者の入院前の生活状況を把握し、退院後の生活を見据えて患者・家族の思いに寄り添いながら、多職種と連携・協働し退院支援機能を充実させた。また、後方連携が円滑にいくように77施設（病院32件、訪問看護ステーション17件、施設28件）への訪問を実施した。

昨年度から開始した「出張いきいき健康塾」は、8近隣市町村の会場に出向き13回実施することができた。また、地域関係機関と連携を取りながら行うことができた。

1. 地域医療連携室における対応件数

1) 病診連携（表1）

平成30年度の対応件数は3,611件であった。その中で、受診・医療相談が1,655件（約46%）で最も多かった。緊急受診による診療情報提供依頼や転院相談の問い合わせが増加しており、地域医療連携室間で連携を取りながら行った。

表1 地域医療連携室対応件数

内 容	平成30年度（実数）	平成29年度（実数）
診療情報提供・照会	1,080	1,695
受診・医療相談	1,655	822
経済的問題	171	100
社会的問題	338	203
心理的問題	80	29
セカンドオピニオンの相談	47	58
その他	240	531
合 計	3,611	3,438

2) 医療福祉相談（表1）

相談で多かったのは受診・医療相談であり、患者・家族からの相談や医療機関からの循環器や呼吸器疾患の専門的な治療に関連した相談が多く、関連部署、各科医師と連携を図り対応した。また、訪問看護・訪問診療の導入や介護支援専門員と連携しながら在宅療養支援を実施した。

経済的・社会的問題の相談は増加しており、「無保険や低所得の患者」「高齢世帯・単身世帯のため在宅介護が受けられない」などの問題が多かった。これらの問題は、高額療養費制度や

限度額適用認定証の説明、介護保険など社会保障制度の情報提供で解決できたことが多かった。そのため患者・家族が社会保障制度の情報へアクセスしやすいように「いきいきレター・トクトク情報」を適宜改定し、相談時に活用した。さらに、行政機関との合同会議、連絡調整を密に行うことで円滑に地域に繋げた。

心理的相談も増加しており、患者・家族の抱える問題が深刻かつ複雑で、長期間の関わりを要し難航する場合も多かった。必要に応じて、他機関へ連絡を取り、専門的支援に繋ぐことで解決した。

3) 医療機器共同利用件数 (表 2)

表 2 医療機器共同利用件数

内 容	平成 30 年度	平成 29 年度
核医学検査依頼件数	102	135
放射線機器共同利用件数	23	35
生理検査依頼件数	9	11

医療機器共同利用件数は、他院から放射線検査及び生理検査の依頼を受けており、依頼件数は前年度と比べ 47 件減少した。

2 病棟における退院支援・調整に関する対応件数 (入院実数 6,114 名) (表 3)

表 3 退院支援・調整に関する対応件数

内 容	平成 30 年度	平成 29 年度
退院時共同指導カンファレンス実施	85	66
介護支援等連携指導カンファレンス実施	243	181
退院支援介入件数	916	769
内訳) 転院支援	213	226
在宅支援	561	400

院外連携においては、退院支援看護師が患者の入院前の生活や、介護支援の状況を介護支援専門員や訪問看護師から積極的に情報収集し、在宅支援に向けて入院直後から退院後の生活に合わせた介護保険の利用や、在宅医療調整等を実施することができた。また、入院中に行われてきた医療・看護をどのように退院後も継続していくかを検討するため、介護支援等連携指導カンファレンスや退院時共同指導カンファレンスが増加した。これらのカンファレンスを実施し、退院後の医療・介護・福祉の切れ目ない在宅療養支援に繋げることができた。

3 出張いきいき健康塾 (表 4)

出張いきいき健康塾は、表 4 に示すように 2 つのテーマで 8 市町村で 13 回実施した。市町村の関係部署と連携を取りながら実施することができた。

1) 講師とテーマ

- (1) 「知っておきたい 最近の喫煙・禁煙事情」呼吸器内科医長 高久洋太郎
- (2) 「意外な症状の循環器疾患」心臓外科医長 中村賢

2) 開催市町村及び共催・後援等

- (1) 熊谷市：健康づくり課、熊谷市医師会 (1 回)
- (2) 深谷市：花園公民館、深谷寄居医師会 (2 回)
- (3) 大里郡寄居町：健康福祉課保健指導班、深谷寄居医師会 (2 回)

- (4) 本庄市：保健部健康推進課、本庄市児玉郡医師会（2回）
- (5) 東松山市：東松山市、比企医師会（2回）
- (6) 秩父市：保健医療部、秩父郡市医師会（1回）
- (7) 行田市：行田市保健センター、行田市医師会（2回）
- (8) 鴻巣市：健康づくり課、鴻巣市医師会（2回）

表4 出張いきいき健康塾開催実績表

回数	開催日	時間	講師	会場	参加人数
1	H30年6月27日(水)	14時～15時	高久	寄居町 町役場6階会議室	30
2	7月5日(木)	14時～15時	中村	深谷市 花園公民館	50
3	7月25日(水)	14時～15時	高久	熊谷市 妻沼庁舎会議室	6
4	9月13日(木)	14時～15時	中村	鴻巣市 箕田公民館	32
5	10月31日(水)	19時～20時	高久	深谷市 花園公民館	21
6	11月14日(水)	19時～20時	高久	本庄市 はにぼんプラザ	23
7	11月22日(木)	14時～15時	中村	寄居町 保健福祉総合センター	31
8	12月19日(水)	19時～20時	高久	東松山市 松山市民活動センター	20
9	12月20日(木)	14時～15時	中村	秩父市 秩父宮記念市民会館 けやきフォーラム	25
10	H31年1月24日(木)	14時～15時	中村	行田市 行田市保健センター	55
11	2月6日(水)	15時～16時	高久	行田市 行田市役所(市職員対象)	27
12	2月20日(水)	14時～15時	高久	鴻巣市 鴻巣市役所	40
13	3月14日(木)	14時～15時	中村	本庄市 本庄市保健センター	76
合計					440

第6節 診療材料等管理業務

備品及び診療材料等を適正に選定又は採用するため、備品・診療材料選定委員会を設置している。

平成30年度は26回の委員会を開催し、27件の備品選定を行うとともに、下表のとおり、診療材料及び試薬の採用・削除について審議・検討を行った。

また、平成25年度10月1日からはSPDを開始し、平成30年8月1日より株式会社栗原医療器械店に診療材料・試薬（医薬品に該当するもの等を除く）の購入と供給を委託した。（契約期間令和3年9月30日まで）

【診療材料等の採用件数】

種 類	新 規 採 用	緊急規程適用承認
診療材料	44 件	0 件
試 薬	21 件	0 件

【診療材料等採用・削除品目数】

削 除 品 目 数	3,269 品目
採 用 品 目 数	310 品目
平成30年度末総品目数	6,064 品目

※上記SPD業者が品目の見直し作業を実施した。

第7節 図書室の業務

図書室の状況

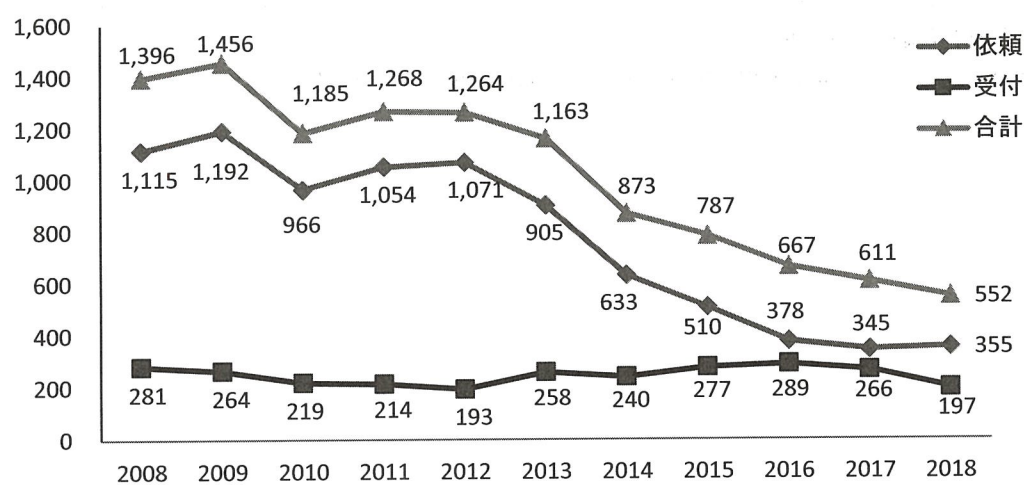
1 蔵書数

資料区分	蔵書数	平成30年度受入数	平成30年度受入雑誌数 (タイトル数)
単行本	9,714冊	93冊	洋雑誌30誌※
ビデオ・DVD	509本	1本	和雑誌84誌

※内19誌は電子ジャーナル

2 文献相互貸借の推移

	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
依頼	1,115	1,192	966	1,054	1,071	905	633	510	378	345	355
受付	281	264	219	214	193	258	240	277	289	266	197
合計	1,396	1,456	1,185	1,268	1,264	1,163	873	787	667	611	552



第8節 新館関連業務

管財担当では、埼玉県病院局経営管理課と連携し、新館棟建設工事の実施、新館棟竣工に伴う式典等開催、新館棟への移転の実施、既存棟改修工事の実施などを行った。

1 平成30年度の主な実施業務

埼玉県病院局経営管理課が実施した本館棟2階透析室ほか改修工事、A病棟改修工事及び検査棟解体工事の完了に伴い、「治療棟等利用検討ワーキングチーム」において策定された既存棟空室の利用方針に基づき、執務室等の移転作業を行った。

(1) 既存棟内の執務室等移転業務

執務室等移転業務委託の入札を実施し、受託者となった「株式会社日立物流」と協力して移転作業を実施した。

(ア) 検査技術部倉庫移転作業

本館棟1階及び治療棟2階にある検査技術部倉庫について、A病棟2階に移転した。

(イ) 治験管理室移転作業

治療棟2階南側にある治験管理室について、治療棟2階北側の肺機能検査室跡地に移転した。

(ウ) 処方箋等保管庫移転作業

治療棟地下にある処方箋等保管庫について、A病棟3階に移転した。

(エ) リハビリテーション部執務室移転作業

A治療棟3階にあるリハビリテーション部執務室について、治療棟1階の旧マットレス保管庫に移転した。

(オ) 家族付添室・控室移転作業

治療棟2階にある家族付添室・控室について、治療棟1階の旧病理標本保管庫(1)・看護助手休憩室に移転した。

(カ) 医療安全管理室保管庫移転作業

本館棟地下及び5階にある医療安全管理室保管庫について、A病棟1階に移転した。

(キ) 看護ケア支援室移転作業

治療棟1階にある看護ケア支援室を治療棟2階の旧家族控室に移転した。

(ク) 看護師長当直室移転作業

本館棟1階にある看護師長当直室を治療棟2階の旧手術スタッフ更衣室に移転した。

(ケ) 旧病歴閲覧室物品移動作業

治療棟2階にある旧病歴閲覧室内の物品を新館棟1階倉庫に移動した。

第2編

研究編

第1章 研究施設における研究

1. はじめに

県民の希望する先進医療を実践するために、本センターが循環器、呼吸器疾患に関する日本有数の医療機関になるには、世界的レベルで評価される新しい診断や治療の技術を開発していく必要がある。

本研究施設は、これを目標として以下のような基本方針を掲げ、本センターの活動の一端を担っている。

2. 運営方針

2. 1 基本方針

- ・ つねに世界の最先端を目指し、独創性が高く、波及効果の大きい研究を行う。
- ・ 臨床への応用を目指したテーマを中心に研究活動を行う。
- ・ 医師や技師が創造性を最大限に発揮できるように支援する。

2. 2 運営方針概要

1. 国内外の研究ネットワークを構築し、大学等の他の研究機関と共同研究を積極的に行うことで研究の活性化と迅速化を図る。
2. 実用性の高い研究については、製品化を考慮すると企業との共同研究が必須となるため、これに見合った共同研究システムを構築していく。
3. 理工学系の研究スタッフの参加により、従来の医療スタッフだけでは実行不可能だった研究を実施できる支援体制を作る。

具体的には以下のようなことを行っている。

- ・ 研究テーマの選定に関して助言をする。
 - ・ 研究計画に対して工学的側面から助言する。
 - ・ 市販品にはない特殊な研究機器を試作する。
 - ・ 計測システムに関して助言または構成の支援をする。
 - ・ シミュレーション等により実験結果を理論面から予測する。
 - ・ 実験結果の解析手法に関して技術的な支援をする。
 - ・ 実験結果に対して工学的側面から考察を加える。
 - ・ 工学的側面の強い研究においては単なる支援に止まらず共同で研究を行う。
 - ・ 研究を円滑に進めるために研究ネットワークを利用して、研究内容に見合った外部機関の研究協力者（大学、公立研究機関等の人材）を紹介する。
 - ・ 若手医師や技師に研究活動に関連した一般知識（研究活動のしかた、論文作成発表手順等）の教育と援助を行う。
 - ・ 医師や技師が知っておくべき工学分野の知識を伝達する。
 - ・ 医学に関連した工学分野におけるトピックスを提供する。
4. センターに勤務する医師や技師の研究計画は、原則としてセンター内公募とし、研究委員会にて採否を決定する。
 5. センター外の研究者が当施設を利用して学術的に意義のある研究をしたい場合も、当センター医療職員との共同研究として公募研究の場合と同様に扱う。
 6. 研究の κατηγοリーを以下のように分類し、実験研究の目標を明確化する。
 - a) 新奇性・独創性が高い研究（世界初か否かを問う）
 - b) 質的波及効果が高い研究

- c) 量的波及効果が大きい研究
 - d) 従来の方法の理論面からの研究
 - e) 実践的効果がある実験
 - f) 教育的効果がある実験
7. 研究成果の最終評価を厳しく行い、成果獲得のための投資効率を高める。
 8. 研究で得られた成果は、報告書にまとめ、また報告会を開くことで、だれもがアクセスできるよう管理する。
 9. 動物実験はすべて NIH 基準を満足させることを条件とする。

3. 研究概要

平成 30 年度に行われた公募研究を含めた主要研究テーマ及び研究内容の概略を以下に示す。

これらの研究は、まだ研究を開始したばかりで実験系の確立を試みている段階のものもあるが、独創性の高いものや、実用性の高いものが多く、今後の成果が期待される。

研究 1) 持続的硬膜外腔脊髄冷却システム

大動脈瘤手術の深刻な合併症である対麻痺を回避する目的で開発した持続的硬膜外腔脊髄冷却システムは、長年にわたる動物実験で満足のいく結果を示すことができた。この成果をもとに世界初の臨床応用を目指して、システムの性能面や安全面でなお一層の向上を図るべく検討を進めた。カテーテルの経皮的挿入を実現し、胸部大動脈瘤手術例に適用して、その安全性、有用性を確認しつつあり、対麻痺の発生回避率はきわめて高い。過去に類型を見ない新技術であり、現在、医師主導の臨床治験から本邦 PMDA (米国の FDA に相当) 主導の治験への移行期である。工学的側面から冷却システムのメカニズムをコンピュータにより解析し、冷却効果の裏付けを進めている。最終的に製造承認を得て、臨床に送り出すべく鋭意検討中である。将来は脊髄外傷による四肢麻痺などの治療にも応用できる可能性さえ秘めていると期待している。

研究 2) 患者動作監視システム

三次元加速度センサおよび角速度センサなどのモーションセンサーなどを用いてベッドでの患者の動作をモニターし、無線伝送システムで近くにあるコンピュータにデータを送信する方式の検討を進めている。このシステムにより患者の麻痺の進行状況を実時間で診断したり、譫妄などの異常動作を検出し通報したりすることが可能となり、人手不足による医療体制の不備を補うことができる。現在、得られたデータを小型の無線機で伝送するシステムを試作中である。今後、送られてきたデータをコンピュータで解析統合し、患者動作の内容を即座に判断し、必要に応じて警報を発するシステムの開発も進めていく予定である。

以下に平成 30 年度に行われた公募研究テーマを示す。

1. PEAK プラズマブレードを用いた新規ペースメーカー植込み術
2. パッチ型と 5 点式長期間ホルターの有用性の比較 (心房細動アブレーション症例において)
3. 冠動脈造影 CT 検査画像を用いた冠動脈血流解析 - 仮想手術による血流シミュレーションに基づいた吻合部位の検討および術後の評価 -
4. クオンティフェロン (QFT-TB2G) の臨床応用 - QFT-gold の臨床応用 -
5. 市中肺炎における起因菌の検討
6. 特発性肺線維症と鳥関連慢性過敏性肺炎の鑑別・診断における鳥特異抗体の有用性の検討
7. 急性経過の、間質性肺炎を思わせる臨床経過・画像を呈する症例におけるウイルス肺炎の頻度と

特徴に関する検討

8. 原発性肺癌における PD-L1 発現の不均一性の研究
9. 胸部疾患に対するロボット手術手技の研究
10. 内頸動脈内膜剥離術（CEA）施行時の術中脳虚血と各種モニタリングの相関に関する検討
11. 術前腎機能低下合併心臓手術患者における心房性ナトリウム利尿ペプチドの投与量による術後急性腎障害発生率の変化及び腎障害マーカーの変化
12. レミフェンタニル麻酔下開心術時のケタミン少量持続投与は、術後離床を早めるか？
13. 人工心肺使用症例における急性腎障害の発生に対し尿中バイオマーカーL-FABP を使用し急性腎障害の早期予測と体外循環操作の改善が可能か検討
14. clinically amyopathic dermatomyositis に急速進行性間質性肺炎を併発した抗 MDA-5 抗体陽性患者に対し、血漿交換療法による自己抗体・サイトカイン除去能の検討
15. 有限要素法を用いた脊髄冷却カテーテルの冷却効果のコンピュータシミュレーション解析およびブタモデルによる実験的検討

第2章 病院における研究等

1 著書

循環器内科

Transcatheter Tumor Biopsy Combined
With Balloon Pulmonary Angioplasty in
Diagnosing Intravascular Pulmonary
Small Cell Carcinoma

Shinya Nagayoshi,MD, Christian Michael H Pawhay,MD, Shinya Fujii,MD, Takatomo
Nakajima,MD,PHD, |

Yoshihiko Shimizu,MD,PHD, Makoto Muto,MD,PHD.

IMAGES IN INTERVENTION vol.12 No.8, 2019

維持透析導入に on-line HDF を用いた 1 症例

清水 泰輔・山元 亮・岡田 良美・羽田野 実・木場 藤太
岩下 山連・小川 智也・武藤 誠・長谷川 元

臨床透析 vol.32 No.11 2016 107

武藤 誠 TOPIC 2018 Syllabus p.128-p.130

CTO PCI における channel injury のあれこれと対処法

永吉 信哉

JACC Cardiovascular Interventions

Transcatheter Tumor Biopsy Combined With Balloon Pulmonary Angioplasty in Diagnosing
Intravascular Pulmonary Small Cell Carcinoma

Shinya Nagayoshi, Christian Michael H. Pawhay, Shinya Fujii, Takatomo
Nakajima, Yoshihiko Shimizu and Makoto Muto, March 2019,

DOI: 10.1016/j.jcin.2019.02.013

血管外科

墨誠. 【イラスト&画像で各科の手術がバッチリ! オペナーズのための“イイトコ取り”解剖図】(第
3 章) 心臓血管外科 オペナーズ“イイトコ取り” 本当に手術に必要な解剖図 スtent グラフ
挿入術. オペナーシング 2018 秋季増刊. 138-142 (2018.09)

病理診断科

清水禎彦（監修協力）．病気がみえる vol.4 呼吸器．第3版．医療情報科学研究所編．メディックメディア，東京，2018．

看護部

手術室 手術看護認定看護師 岩本友希「専門病院における手術室新人教育の特殊性とチーム指導の取り組み」手術看護エキスパート 2019 Vol.13 No.1

看護部 副病院長兼看護部長 守谷明子 「アクティブ・ブック・ダイアログ看護管理の理論と看護管理の経験をつなぐ学習法」看護管理 Vol.29 No.02 2019. P156-157

CCU 看護副師長 福田慎次 「対話型読書会 アクティブ・ブック・ダイアログ」に参加して 対話を通しての気づきと学び」看護管理 Vol.29 No.02 2019. P155-156

2 論文

循環器内科

武藤 誠

Midterm angiographic outcomes with sirolimus- and everolimus-eluting stents for small vessels in diabetic patients: propensity-score-matched comparisons in three different vessel diameters

Kenichiro Suzuki, Tetsuya Ishikawa, Makoto Mutoh.

Cardiovasc Interv and Ther(2018) 33:205-216

武藤 誠

The Role of the Retrograde Approach in Percutaneous Coronary Interventions for Chronic Total Occlusions : Insights from the Japanese Retrograde Summit Registry

Makoto Sekiguchi, Makoto Mutoh

Interv.Cardiol.(2018) 10(4),93-100

血管外科

山城理仁, 小野口勝久, 田口真吾, 花井信, 墨誠, 山崎真敬, 蜂谷貴. 自己心膜パッチ形成術と大網充填で救命し得た感染性大動脈瘤の1例. 心臓 50巻8号 909-915(2018.08)

臼田岩男, 前田隆求, 三田勝範, 加賀谷慎, 三好壮太郎, 墨誠. EVAR後の二次性大動脈腸管瘻に対し、Late Open Conversionを施行した2症例の麻酔経験. Cardiovascular Anesthesia 22巻1. 151-155(2018.08)

呼吸器内科

Spontaneous regression of primary endobronchial extranodal marginal zone lymphoma of mucosa-associated lymphoid tissue.

Hosoda C, Ishiguro T, Takahashi N, Kamiishi N, Shimizu Y, Takayanagi N.
Respir Med Case Rep. 2019 Mar 20;27:100826.

呼吸器外科

高橋伸政、澤端章好、松谷哲行、川村雅文、大塚 崇、堀尾裕俊、坂口浩三、金子公一、中山光男、吉谷克雄、千田 雅之、星 永進；臨床病期 I 期肺癌における至適縮小手術の検討 -断端距離/腫瘍径比、断端細胞診の意義 (KLSG0801 副次解析)- 日呼外 2018; 32(4):450-457.

高橋伸政, 堀内 翔, 諸岡宏明, 揖斐孝之, 齋藤雄一, 池谷朋彦, 渡会 光, 浅沼晃三, 星 永進；呼吸器外科医の視点から見た肺癌集学的治療の現況と今後の課題 胸部外科 2018; 71(4):258-263.

Noriyoshi Sawabata , Akikazu Kawase , Nobumasa Takahashi , Takeshi Kawaguchi , Tetsukan Woo , Yuichi Saito, Satoshi Shiono , Noriyuki Matsutani; Validating margin status in lung wedge resection for clinical stage I Non-Small Lung Cancer. Surg Today 2018; 48:963-967.

Noriyuki Matsutani, Katsuo Yoshiya, Masayuki Chida, Hirozo Sakaguchi, Takuma Kikkawa, Hiroki Fukuda, Nobumasa Takahashi, Noriyoshi Sawabata, Hirotoshi Horio, Nobuhiko Seki and Masafumi Kawamura: Postoperative empyema following lung cancer surgery. Oncotarget 2018; 9(51):29810-29819.

Yusuke Okuma, Kei Morikawa, Hisashi Tanaka, Takuma Yokoyama, Hidetoshi Itani, Kazuya Horiuchi, Hideyuki Nakagawa, Nobumasa Takahashi, Akihiro Bessho, Kenzo Soejima, Kazuma Kishi, Akira Togashi, Yae Kanai, Koji Ueda, Katsuhisa Horimoto, Noriyuki Matsutani, Nobuhiko Seki: Prospective exosome - focused translational research for afatinib study of non - small cell lung cancer patients expressing EGFR (EXTRA study). Thorac cancer 2018;10(2):395-400.

Hewitt LC, Inam IZ, Saito Y, Yoshikawa T, Quaas A, Hoelscher A, Bollschweiler E, Fazzi GE, Melotte V, Langley RE, Nankivell M, Cunningham D, Allum W, Hutchins GG, Grabsch HI. Epstein-Barr virus and mismatch repair deficiency status differ between oesophageal and gastric cancer: A large multi-centre study. Eur J Cancer. 2018 May; 94:104-114. doi: 10.1016/j.ejca.2018.02.014. Epub 2018 Mar 20.

揖斐孝之, 臼田実男, 井上達哉, 佐藤 明, 竹ヶ原京志郎, 園川卓海, 加藤栄子. 肺扁平上皮癌における Klotho 遺伝子による上皮間葉転換の制御. 考える外科学 (第 117 回日本外科学会定期学術集会記念誌) p122-123, 2018

脳神経外科

Suzuki K, Kato Y, Hayashi T, Maruyama H, Kikkawa Y, Kurita H: The dose of direct oral anticoagulants and outcomes of intracerebral hemorrhage: preliminary findings. Clin Neurol Neurosurg 174: 63-67, 2018

Fushihara G, Kamide T, Kimura T, Takeda R, Ikeda T, Kikkawa Y, Araki R, Kurita H : Factors associated with early seizures after surgery of unruptured intracranial aneurysms : Clinical Neurology and Neurosurgery 178, 93-96, 2019

鈴木海馬、栗田浩樹：基本をマスター 脳神経外科手術のスタンダード：脳動静脈奇形に対する hybrid 手術室での治療. 脳神経外科速報 28: 758-763, 2018

鈴木海馬：院内だより「脳神経外科」：院内だより 2 月号

病理診断科

Kawabata Y, Kasai T, Kobashi Y, Kawahara K, Uekusa T, Kurashima K, Shimizu Y. Grade 4 asbestosis does not extend directly from the respiratory bronchiole to the peripheral lung. Histopathology. 2018; 73: 29-37. (原著)

Ishii H, Watanabe K, Kushima H, Terasaki Y, Hebisawa A, Johkoh T, Ogura T, Sakai F, Takemura T, Kawabata Y, Ogura T and the Tokyo Diffuse Lung Disease Study Group. Pleuroparenchymal fibroelastosis diagnosed by multidisciplinary discussions in Japan. Respiratory Medicine. 2018; 141: 190-197. (原著)

Devanand P, Oya Y, Sundaramoorthy S, Song KY, Watanabe T, Kobayashi Y, Shimizu Y, Hong SA, Suganuma M, Lim IK. Inhibition of TNF α -interacting protein α (Tipa)-associated gastric carcinogenesis by BTG2/TIS21 via downregulating cytoplasmic nucleolin expression. Exp Mol Med. 2018; 50: e449. (原著)

Rawangkan A, Wongsirisin P, Namiki K, Iida K, Kobayashi Y, Shimizu Y, Fujiki H, Sukanuma M. Green tea catechin is an alternative immune checkpoint inhibitor that inhibits PD-L1 expression and lung tumor growth. *Molecules*. 2018; 23: E2071. (原著)

Ishida H, Shimizu Y, Sakaguchi H, Nitanda H, Kaneko K, Yamazaki N, Yanagihara A, Taguchi R, Sakai F, Yasuda M, Kobayashi K. Distinctive clinicopathological features of adenocarcinoma in situ and minimally invasive adenocarcinoma of the lung: A retrospective study. *Lung Cancer*. 2019; 129: 16-21. (原著)

Asato Y, Kamitani T, Ootsuka K, Kuramochi M, Nakanishi K, Shimada T, Takahashi T, Misu T, Aoki M, Fujihara K, Kawabata Y. A case of transient pulmonary interstitial lesions in aquaporin-4-positive neuromyelitis optica spectrum disorder. *Intern Med*. 2018; 57: 2981-2986. (症例報告)

河端美則. 石綿肺の鑑別診断. *社会労働衛生*. 2018; 16: 1-16. (総説)

吉積悠子, 富岡洋海, 勝山栄治, 河端美則. 気胸を契機に診断されたサルコイドーシスの1例. *日サ会誌*. 2018; 38: 71-74. (症例報告)

検査技術部

小細胞癌へ転化した EGFR 遺伝子変異陽性肺腺癌の1例

沼上 秀博

舟橋 光政、草間 冬子、宮川 芽衣、鈴木 敦、小林 康人、清水 禎彦

埼玉県臨床細胞学会 第36巻 2018年12月

【もう悩まない 呼吸機能検査-検査をスムーズに進めるための知恵と工夫】

呼吸検査を始める前に

大久保 輝男

Medical Technology 46巻6号 Page 508-514 (2018.06)

検査の基本から判読の極意まで 生理検査道場 (第7回)

呼吸機能検査 (VC,FVC) 判読手順と異常値メカニズム

大久保 輝男

臨床検査 62巻12号 Page 1641-1647 (2018, 12)

検査の基本から判読の極意まで 生理検査道場 (第8回)

呼吸機能検査 (VC,FVC) 判読の極意

大久保 輝男

臨床検査 63 巻 1 号 Page 97-103 (2019, 1)

3 学会・研究発表

循環器内科

武藤 誠 星総合病院 PCI ワークショップ

Guest Operator

2018年5月11日 星野総合病院 カテーテル治療室

血管外科

第46回日本血管外科学会学術総会. 山形. 2018年5月. 会長要望演題.

墨誠, 百川文健, 宿澤孝太, 中村賢, 花井信, 小野口勝久, 大木隆生. 開窓型 TEVAR の有用性と限界

第46回日本血管外科学会. 山形. 2018年5月

EVAR 術後の CRP 値は、瘤径縮小・Type 2 エンドリークに関与するか

百川文健, 墨誠, 高橋潤次, 大木隆生.

第13回関東血管内視鏡研究会. 東京. 2018年5月

大動脈内視鏡を用いて内腸骨動脈コイル塞栓留置直後の塞栓過程を観察した一例

百川文健, 墨誠, 高橋潤次.

第176回血管外科症例検討会. 東京. 2018年6月

腹部人工血管置換後周術期に肝動脈瘤切迫破裂を呈しコイル塞栓術を行った1例

百川文健, 墨誠, 高橋潤次, 花井 信, 大木隆生.

Aortic Repair Challenge Meeting in Tokyo 東京. 2018年7月.

墨誠. 弓部大動脈瘤に対する当院での Kawasumi Najuta.

第13回 Japan Endovascular Symposium. 東京. 2018年8月.

墨誠. Video Live. Aorfix.

第13回 Japan Endovascular Symposium. 東京. 2018年8月.

墨誠. Video Live. Aortic Cuff first.

第58回 日本脈管学会学術総会. 広島. 2018年11月.

山口 彩香(埼玉県立循環器・呼吸器病センター 放射線技術部), 大澤 伸, 門脇 裕太, 浅石 竜輝, 鈴木 伸貴, 高橋 彩子, 星 俊子, 百川 文健, 墨 . EVAR 後経過観察のエンドリーク検出における高精細・高感度な血流イメージング法(SMI)を用いた超音波検査の有用性について

第80回日本臨床外科学会総会. 東京. 2018年11月. ビデオシンポジウム.

墨誠. 弓部大動脈瘤に対するデブランチ手技と枝付きステントグラフト術 In-situ fenestration(RIBS)法と Surgeon-Modified Branched Stentgraft

第17回彩の国 Endovascular Surgery 研究会. 埼玉. 2018年11月

AVR 後の弓部瘤に対して、Zone 0 TEVAR(RIBS)で治療した 1 例
百川文健, 墨誠, 高橋潤次.

第 5 回 Gore Aortic Clinical Symposium. 東京. 2018 年 12 月.
墨誠. スムーズ IBE~埼玉循環スタイル~.

第 14 回関東血管内視鏡研究会. 東京. 2018 年 12 月
慢性解離性大動脈瘤ステントグラフトン治療時の tear を大動脈内視鏡で観察有用だった症例
百川文健, 墨誠, 高橋潤次.

呼吸器内科

間質性肺炎合併小細胞肺癌の検討

鍵山 奈保、山田 真紗美、小島 彩子、吉田 悠貴、西田 隆、中元 康雄、河手 絵里子、太田 池
恵、小田島 丘人、石黒 卓、高久 洋太郎、倉島 一喜、柳澤 勉、高柳 昇
第 58 回日本呼吸器学会学術講演会 平成 30 年 4 月 27 日、大阪

過敏性肺炎(HP)121 例の長期予後と 再発・慢性化・死亡のリスク因子探索

西田 隆、河手絵理子、吉田悠貴、小島彩子、山田真紗美、中元康雄、太田池恵、小田島丘人、石黒卓、
高久洋太郎、鍵山奈保、倉島一喜、柳沢 勉、高柳 昇
第 58 回日本呼吸器学会学術講演会 平成 30 年 4 月 27 日、大阪

肺クリプトコッカス症 52 例の 臨床的検討

山田真紗美、吉田悠貴、小島彩子、西田 隆、中元康雄、河手絵理子、太田池恵、小田島丘人、石黒 卓、
高久洋太郎、鍵山奈保、倉島一喜、高柳 昇
第 58 回日本呼吸器学会学術講演会 平成 30 年 4 月 27 日、大阪

気管支喘息患者の発作時ならびに回復時の気道解析

吉田悠貴、高久洋太郎、小島彩子、山田真紗美、西田 隆、中元康雄、河手絵理子、太田池恵、小田島丘
人、石黒 卓、鍵山奈保、高柳 昇、倉島一喜、
第 58 回日本呼吸器学会学術講演会 平成 30 年 4 月 27 日、大阪

埼玉県内診療所における呼吸器診療の現状

倉島一喜、高久洋太郎、高柳 昇、柳澤勉
第 58 回日本呼吸器学会学術講演会 平成 30 年 4 月 27 日、大阪

アレルギー性気管支肺真菌症の再発形式と治療の検討

小島彩子、石黒 卓、山田真紗美、吉田悠貴、西田 隆、中元康雄、河手絵理子、太田池恵、小田島丘人、
高久洋太郎、鍵山奈保、倉島一喜、高柳 昇
第 58 回日本呼吸器学会学術講演会 平成 30 年 4 月 27 日、大阪

アレルギー性気管支肺真菌症の包括的な分類・診断基準に関する検討

石黒 卓、小島彩子、山田真紗美、吉田悠貴、西田 隆、中元康雄、河手絵理子、太田池恵、小田島丘人、

高久洋太郎、鍵山奈保、倉島一喜、高柳 昇

第 58 回日本呼吸器学会学術講演会 平成 30 年 4 月 27 日、大阪

イグラチモド単剤内服中に発症した ニューモシスチス肺炎の 2 例

山田真紗美、吉田悠貴、小島彩子、西田 隆、中元康雄、河手絵理子、太田池恵、小田島丘人、石黒 卓、高久洋太郎、鍵山奈保、倉島一喜、高柳 昇

第 229 回日本呼吸器学会関東地方会、平成 30 年 5 月 17 日、東京

気管支鏡、胸腔鏡で診断した アミロイドーシス/L-HCDD の臨床病理学的検討

山田真紗美、吉田悠貴、小島彩子、西田 隆、中元康雄、河手絵理子、太田池恵、小田島丘人、石黒 卓、高久洋太郎、鍵山奈保、倉島一喜、高柳 昇

第 41 回日本呼吸器内視鏡学会学術集会 平成 30 年 5 月 25 日

4 ヶ月の経過で急速に進行した 自己免疫性肺胞蛋白症の 1 例

廣田周子、石黒卓、石川周成、秋山勇人、古部緩、西田隆、中元康雄、細田千晶、小林洋一、高久洋太郎、鍵山奈保、倉島一喜、柳澤勉、清水禎彦、高柳昇

第 233 回日本呼吸器学会関東地方会、平成 31 年 2 月 16 日、東京

Omalizumab, Mepolizumab の投与で良好なコントロールを得られたアレルギー性気管支肺アスペルギルス症の 1 例

廣田周子、高久洋太郎、小林洋一、石黒卓、西田隆、鍵山奈保、倉島一喜、清水禎彦、高柳昇

第 1 回日本アレルギー学会関東地方会、平成 31 年 3 月 16 日、東京

呼吸器外科

Saito Y, Horiuchi S, Morooka H, Ibi T, Takahashi N, Ikeya T, Hoshi E, Shimizu Y. Heterogeneity of PD-L1 expression in primary lung tumors and paired lymph node metastases of non-small cell lung cancer. 8th European Lung Cancer Congress. April 11-14, 2018, Geneva, Switzerland.

Saito Y, Horiuchi S, Morooka H, Ibi T, Takahashi N, Ikeya T, Hoshi E, Shimizu Y. Inter-tumor Heterogeneity of PD-L1 expression in Non-Small Cell Lung Cancer. The Congress on Clinical Contraversies in Lung Cancer. December 13-14, 2018, London, United Kingdom.

諸岡宏明、堀内翔、揖斐孝之、齋藤雄一、高橋伸政、池谷朋彦、星永進 右肺癌上葉切除術後早期に残存下葉の気腫部破裂を認めた一例 2018.4.21 第 28 回三地区合同肺癌・呼吸器疾患研究会

揖斐孝之、堀内翔、諸岡宏明、齋藤雄一、高橋伸政、池谷朋彦、星永進 右管状上葉 S6 切除+肺動脈形成術 (double sleeve lobectomy) を施行し、術後肺梗塞を発症した 1 例 2018.4.21 第 28 回三地区合同肺癌・呼吸器疾患研究会

堀内翔、諸岡宏明、揖斐孝之、齋藤雄一、高橋伸政、池谷朋彦、星永進 当院における低肺機能肺癌手術の検討 2018.5.18 第 35 回 日本呼吸器外科学会総会・学術集会

諸岡宏明、堀内翔、揖斐孝之、齋藤雄一、高橋伸政、池谷朋彦、星永進 術前化学療法を施行した原発性

肺癌症例の検討 2018.5.18 第 35 回 日本呼吸器外科学会総会・学術集会

揖斐孝之, 堀内翔, 諸岡宏明, 齋藤雄一, 高橋伸政, 池谷朋彦, 星永進 臨床病期 I 期間質性肺炎合併肺癌に対する術式の違いによる手術成績の比較 2018.5.18 第 35 回日本呼吸器外科学会

齋藤雄一, 堀内翔, 諸岡宏明, 揖斐孝之, 高橋伸政, 池谷朋彦, 星永進, 清水禎彦. 肺癌 PD-L1 発現は原発巣と転移リンパ節で同じなのか?. 第 41 回日本呼吸器内視鏡学会学術集会 2018 年 5 月 24 日, 東京.

揖斐孝之, 堀内翔, 諸岡宏明, 齋藤雄一, 高橋伸政, 池谷朋彦, 星永進 左上下肺静脈共通幹を切離し、再建した左上葉切除の一例 2018 年 6 月 第 7 回 Saitama Surgery Team of thoracic disease

諸岡宏明, 堀内翔, 揖斐孝之, 齋藤雄一, 高橋伸政, 池谷朋彦, 清水禎彦, 星永進 肺野末梢に発生した孤立性腺上皮性乳頭腫の 1 手術例 2018.7.7 日本肺癌学会関東支部学術集会

堀内翔, 諸岡宏明, 揖斐孝之, 齋藤雄一, 高橋伸政, 池谷朋彦, 星永進 胸腔鏡下右上葉切除術における出血 3 例 2018 年 8 月 Saitama Lung Educational Seminar #1

諸岡宏明, 堀内翔, 揖斐孝之, 齋藤雄一, 高橋伸政, 池谷朋彦, 星永進 当院で経験した鍼治療後の血気胸症例について 2018.11.17 第 36 回埼玉県外科集談会

揖斐孝之, 堀内翔, 諸岡宏明, 齋藤雄一, 高橋伸政, 池谷朋彦, 星永進 増大傾向を認め肺癌が疑われた炎症性偽腫瘍の 1 手術例 2018 年 11 月 埼玉胸部疾患懇話会

高橋伸政, 堀内翔, 諸岡宏明, 揖斐孝之, 齋藤雄一, 池谷朋彦, 清水禎彦, 星永進, 下田純子, 浅沼晃三。非小細胞肺癌における PD-L1 発現と EGFR 遺伝子変異の関連について。第 59 回日本肺癌学会学術集会 11 月 29, 30 日, 12 月 1 日 東京

高橋伸政, 堀内 翔, 諸岡宏明, 揖斐孝之, 齋藤雄一, 池谷朋彦, 星 永進, 清水禎彦。巨大肺腫瘍の切除後に発見された Burned-out testicular tumor。第 28 回日本呼吸器外科医会冬季学術集会 2019 年 2 月 8-9 日。山形

脳神経外科

鈴木海馬、吉川雄一郎、木村辰規、松澤良、栢原智道、柴田碧人、武田純一、栗田浩樹：前交通動脈瘤に対する pterional approach の適応と限界：第 267 回埼玉脳神経外科懇話会 (2018 年 7 月 4 日)

Kaima Suzuki, Yuichiro Kikkawa, Tatsuki Kimura, Ryo Matsuzawa, Tomomichi Kayahara, Aoto Shibata, Junnichi Takeda, Hiroki Kurita : Pterional approach for Anterior Communicating Artery Aneurysm : 6 Sep 2018 2nd Congress of Neurosurgeons of Uzbekistan International Business Center in Tashkent UZBEKISTAN

Kaima Suzuki, Yuichiro Kikkawa, Tatsuki Kimura, Ryo Matsuzawa, Tomomichi Kayahara, Aoto Shibata, Junnichi Takeda, Hiroki Kurita : Surgical treatment of cavernous internal carotid aneurysm

using high-flow bypass : 6 Sep 2018 2nd Congress of Neurosurgeons of Uzbekistan International Business Center in Tashkent UZBEKISTAN

鈴木海馬、吉川雄一郎、木村辰規、松澤良、栢原智道、柴田碧人、武田純一、栗田浩樹：前交通動脈瘤に対する pterional approach の適応と限界：第 77 回日本脳神経外科学会総会(2018 年 10 月 11 日)

伏原豪司、池田俊貴、大井川秀聡、栗田浩樹：当院における CEA 施行時の各種モニタリングと術後脳虚血の相関に関する検討：第 77 回日本脳神経外科学会総会 (2018 年 10 月 11 日)

伏原豪司、鈴木海馬、池田俊貴、大井川秀聡、栗田浩樹：当院における CEA 施行時の各種モニタリングと術後脳虚血・過灌流症候群の相関に関する検討：第 48 回日本脳卒中の外科学会学術総会 (2019 年 3 月 22 日)

鈴木海馬、伏原豪司、高橋秀寿、吉川雄一郎、栗田浩樹：脳卒中領域における Venous thromboembolism の予防・治療：第 7 回武蔵野脳卒中外科カンファレンス(2018 年 11 月 17 日)

鈴木海馬、吉川雄一郎、木村辰規、松澤良、栢原智道、柴田碧人、武田純一、栗田浩樹：前交通動脈瘤に対する pterional approach の適応と限界：第 48 回日本脳卒中の外科学会学術総会(2019 年 3 月 22 日)

伏原豪司：関連施設報告—埼玉県立循環器・呼吸器病センター—：第 6 回埼玉医科大学国際医療センター脳卒中外科年次総会 (2019 年 3 月 31 日)

18ER 伏原豪司、鈴木海馬、池田俊貴、大井川秀聡：内頸動脈内膜剥離術 (CEA) 施行時の術中脳虚血と各種モニタリングの相関に関する検討

病理診断科

須藤結花、大塚重則、林田ひろみ、遠矢あやか、白水健士、堀 慎一、清水 謙、鈴木雅子、飯原久仁子、清水禎彦。ワークショップ 6 記述式子宮内膜細胞診報告様式による判定の実状と有用性。一般病院に於ける記述式子宮内膜細胞診報告様式の検討と運用上の課題。第 59 回日本臨床細胞学会総会 (春期大会)。2018 年 6 月 1-3 日、札幌。

稲田博輝、金野美年子、土居美枝子、瀬山幸子、政岡秀彦、細沼沙紀、石沢圭介、山田健人、清水禎彦、佐々木 惇。肺癌との鑑別を要した縦隔原発混合性胚細胞腫瘍の一例。第 59 回日本臨床細胞学会総会 (春期大会)。2018 年 6 月 1-3 日、札幌。

金野美年子、本間 琢、土居美枝子、瀬山幸子、政岡秀彦、細沼沙紀、稲田博輝、金 玲、市村隆也、石沢圭介、清水禎彦、山田健人、佐々木 惇。経皮的穿刺吸引細胞診で多彩な細胞像を示した胸膜中皮腫の 1 例。第 57 回日本臨床細胞学会秋期大会。2018 年 11 月 17-18 日、横浜

リハビリテーション科及びリハビリテーション部

洲川明久 脳卒中患者への反復経頭蓋磁気刺激法の効果
第 56 回日本リハビリ医学会学術集会 福岡 2018.6.30

押見雅義 柳沢千香子 鈴木昭広 齋藤康人 藤本光美 坂本稚紗子 林祥代 洲川明久
急性心筋梗塞の急性期リハビリテーションプログラムにおける廃用症例の検討
第 24 回日本心臓リハビリテーション学会学術集会 横浜 2018. 7.14

鈴木昭広 藤本光美 柳沢千香子 押見雅義 齋藤康人 坂本稚紗子
林祥代 洲川明久 笠井美穂 宮尾真奈美 宮澤初美 柴崎由佳 松本幸絵 金井和美 尾上美喜恵
坂口翔一 山崎美里 伊丹正好 高橋洋史 工藤雅人 中島崇智
当センターにおける心不全症例の現状と心臓リハビリテーションチームの取り組みについて
第 24 回日本心臓リハビリテーション学会学術集会 横浜 2018.7.14

鈴木昭広 原田慎一 平井清美 加藤芳剛 齋藤康人 柳沢千香子 鹿倉稚紗子 小峰隆弘 河合麻美 水田 宗
達
定時総会でのインターネットによる議決権行使導入報告
第 7 回日本理学療法教育学会学術集会 神戸 2018.11.3

放射線技術部

田島修：心電図同期 CT の有用性，第 53 回日本心血管インターベンション治療学会 関東甲信越地方会，
2018.10，東京.

田島修：経皮的冠動脈インターベンション(PCI)での合併症，第 53 回日本心血管インターベンション治療
学会 関東甲信越地方会，2018.10，東京.

山口彩香，門脇裕太，浅石竜輝，鈴木伸貴，高橋彩子，大澤伸，星俊子，百川文健，墨誠：EVAR 後経過
観察のエンドリーク検出における高精細・高感度な血流イメージング法 (SMI) を用いた超音波検査の有用
性について，第 59 回日本脈管学会総会，2018.10，広島.

検査技術部

第 55 回関東甲信支部・首都圏支部医学検査学会
β-D-グルカン検体の全血冷蔵保存による安定性
～カットオフ値付近の変動について～

松嶋 一成

樋口 翔大、白岩 新一、石井 茂雄、小池 真由美、鈴木 みどり

第 46 回埼玉県医学検査学会

1 時間ごと 24 時間ローレンツプロット表示による不整脈診断の可能性
-ホルター心電図 R-R 間隔を用いて-